

2025年度 第2四半期（中間期） 決算説明資料



2025年11月12日
三愛オブリ株式会社（証券コード：8097）

目 次

- 1. 2025年度 第2四半期 決算概要**

- 2. 業績の進捗と株主還元**

- 3. 本事業年度のトピックス**



1. 2025年度 第2四半期 決算概要

経営成績とポイント

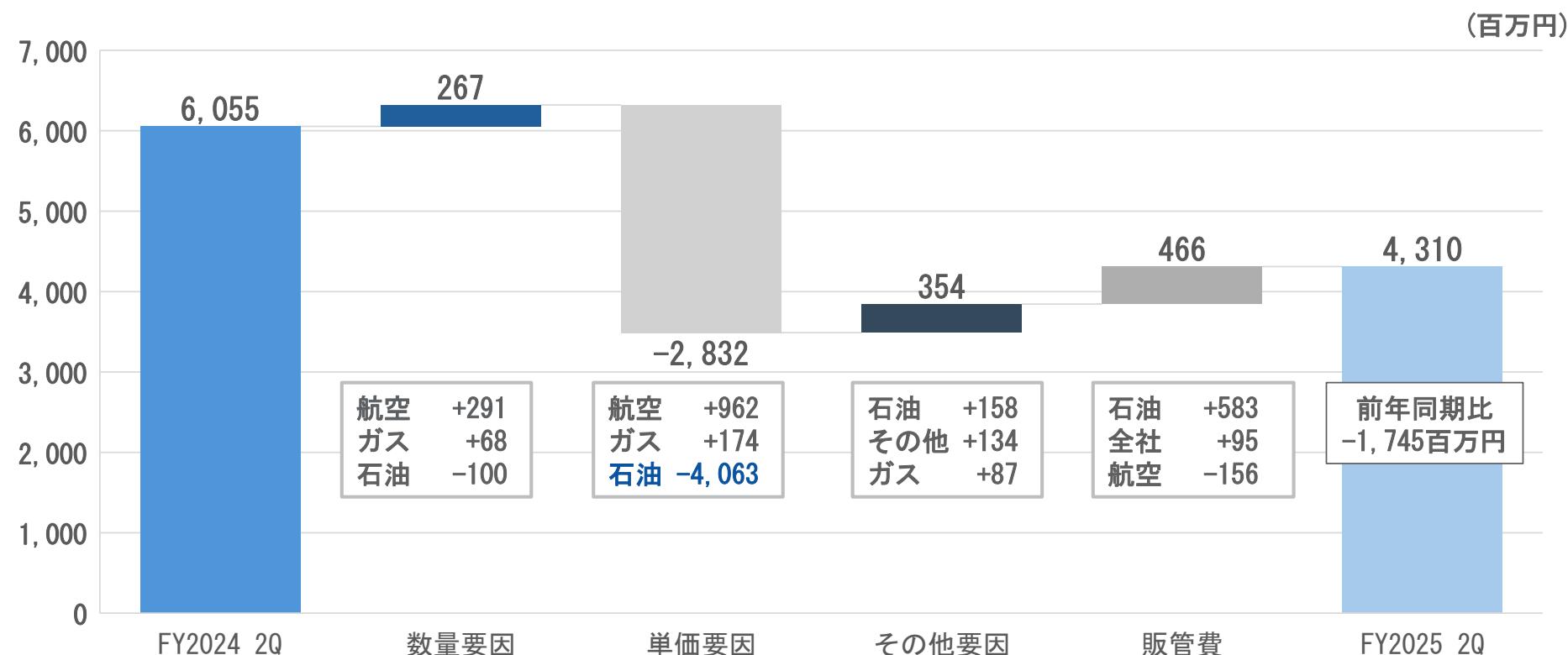
2025年度 第2四半期 経営成績

(百万円)

	FY2024 2Q	FY2025 2Q	前年同期比	前年同期差異
売上高	307, 152	308, 364	+0. 4%	+1, 211
営業利益	5, 532	3, 784	-31. 6%	-1, 748
経常利益	6, 055	4, 310	-28. 8%	-1, 745
親会社株主に帰属する中間純利益	4, 488	2, 828	-37. 0%	-1, 660

- 中東情勢の緊迫に伴う原油価格の上昇や政府による燃料油価格定額引下げ措置の補助金支給、ガソリン税および軽油税の暫定税率廃止の観測により、市場価格に先安感が広がり不安定化
- キグナス石油(株)の一部取引において、仕入と販売の価格形成にゆがみが生じ、収益性が急激に悪化したため石油関連事業が大幅に減益
- 化学品・ガス・航空・その他事業の業績は堅調に推移
- 石油関連事業の減益の影響により、前年同期比で大きく減益

経常利益 前期比増減内訳

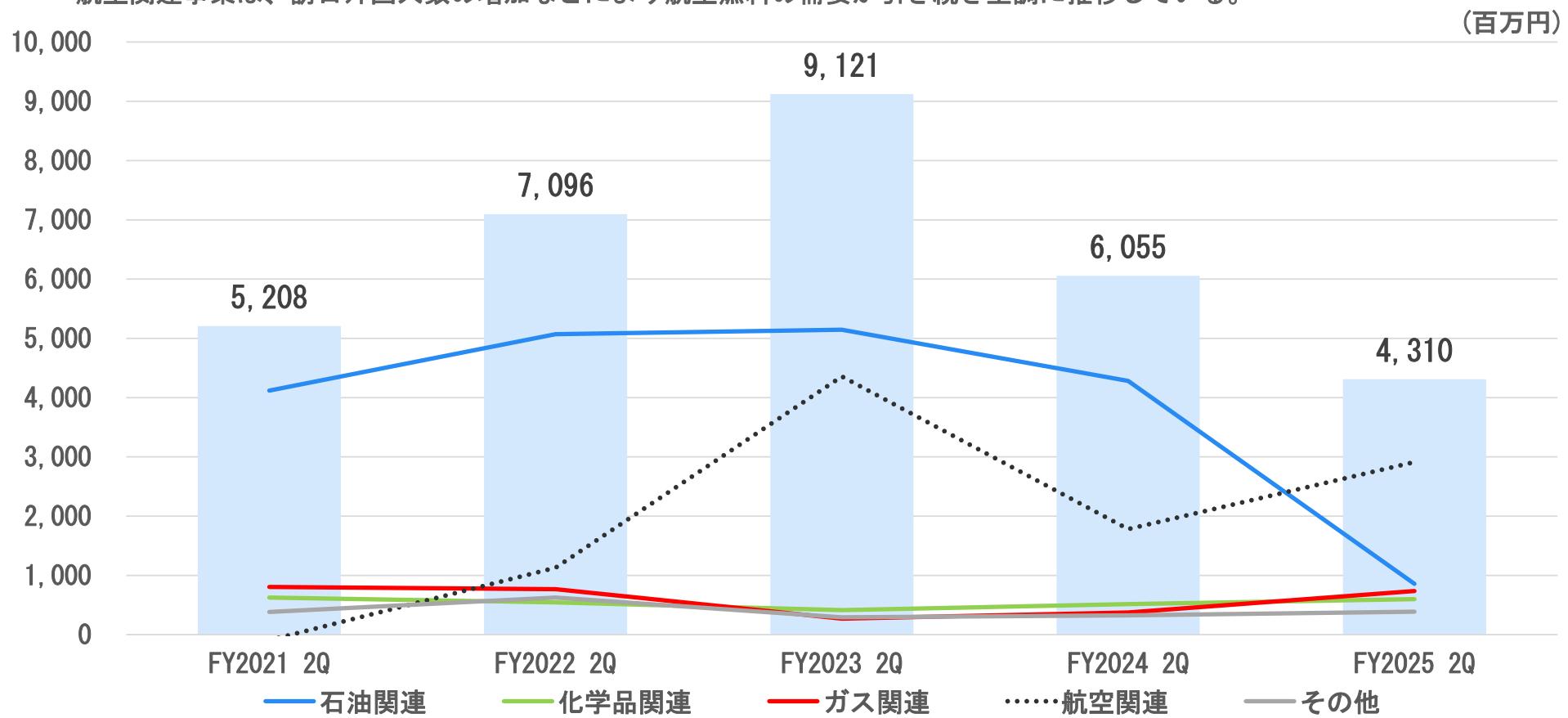


- 在庫による損益影響は単価要因に含まれる。
- その他要因には航空燃料取扱手数料を除く手数料収入および完成工事高の増減、営業外損益が含まれている。

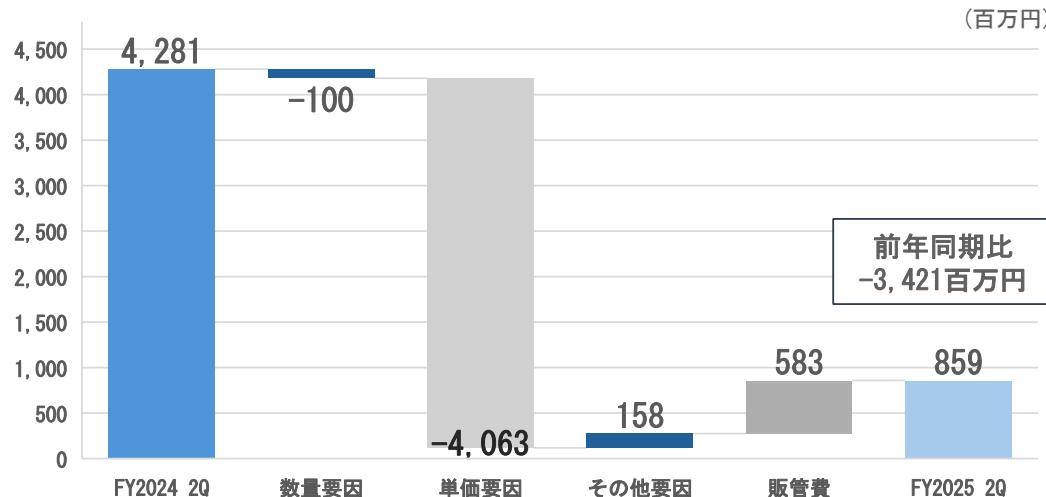
セグメント別 経常利益の推移

石油関連事業は、キグナス石油㈱の業績悪化により第2四半期も大幅な減益となった。

航空関連事業は、訪日外国人数の増加などにより航空燃料の需要が引き続き堅調に推移している。



石油関連事業 経常利益



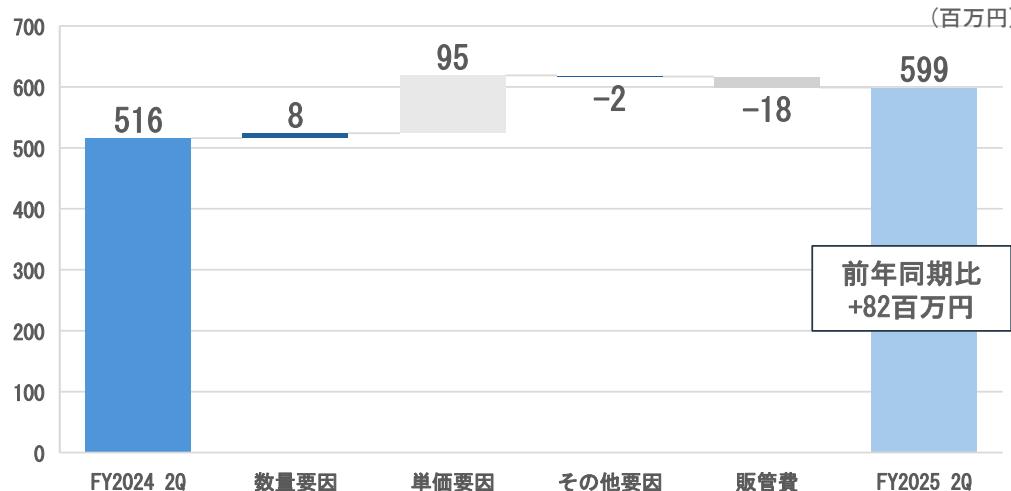
特約店への卸売や工場向け等の産業用燃料油・潤滑油の販売、SS(サービスステーション)での小売販売を通して全国に石油製品を供給している。
2025年9月30日現在 系列SS 974ヶ所



※各部門の金額は経常利益の内訳を表示

小売部門	562百万円
数量	販売数量は前年同期並み
単価	競合との価格競争により利益率は悪化(-)
卸売部門	168百万円
数量	販売数量が微増(+)
単価	キグナス石油(株)で仕入と販売の価格形成にゆがみが生じ大幅な減益(-)
産業用燃料油販売部門	91百万円
単価	利益率が改善(+)
産業用潤滑油販売部門	37百万円
その他	メンテナンス作業の受注がやや低調(-)
販管費	前年同期に貸倒引当金繰入額を計上、対前年同期比では大幅に減少(+)
販売費及び一般管理費	
人件費等減少(+)	

化学品関連事業 経常利益



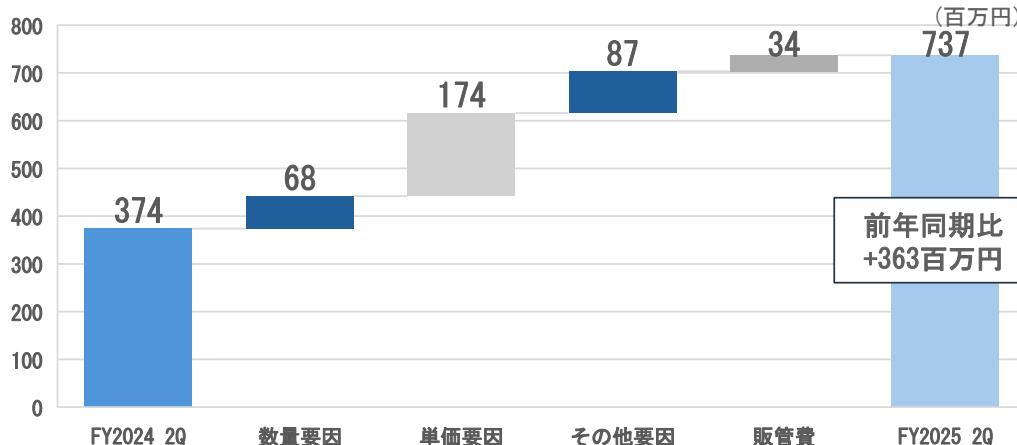
自社製品として防腐・防かび剤、自動車用ケミカル商品等の製造販売をおこなっている。また、石油系溶剤、粘着付与剤等の卸売販売をおこなっている。



※化学品関連事業のみ商品別の説明となっているため、商品区分には粗利の割合を表示

自動車用ケミカル商品	16.5%
数量	洗車薬剤の販売数量は前年同期並み
単価	利益率が改善(+)
防腐・防かび剤	32.7%
数量	販売数量が増加(+)
石油系溶剤	31.0%
単価	利益率が改善(+)
粘着付与剤	12.5%
数量	販売数量は前年同期並み
単価	販売単価、利益率とも前年同期並み
その他（機能化学品他）	7.3%
単価	高級アルコールの利益率低下(-)

ガス関連事業 経常利益



<LPガス販売業>

関東・東海エリア、中国・近畿エリア、九州エリアを中心に家庭用、業務用LPガスの販売およびリフォーム・ガス器具販売等を展開している。

2025年9月30日現在 小売顧客軒数124千軒

<天然ガス販売業>

佐賀天然ガスピープライン等を利用した工場等への供給、佐賀県における一般消費者への都市ガスの供給などをおこなっている。



※各事業の金額は経常利益の内訳を表示

<LPガス販売業>

513百万円

小売部門

数量

夏場の猛暑により単位消費量は減少したものの、小売営業権の買収により販売数量は前年同期並みを維持

単価

顧客軒数の増加により基本料金収入が増加(+)

卸売部門

数量

夏場の猛暑により単位消費量が減少(-)

その他

ガス器具販売が好調に推移(+)

<天然ガス販売業>

224百万円

家庭用

数量

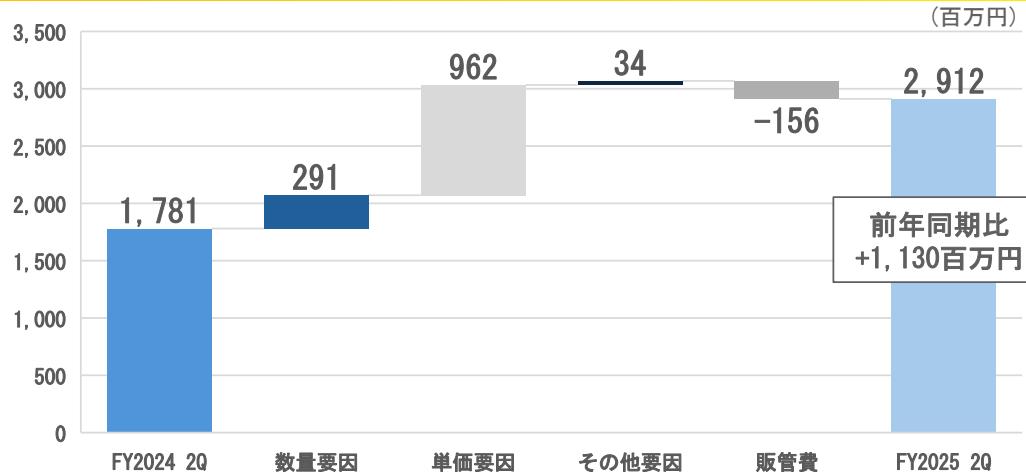
伊万里ガス(株)の加入により増加(+)

業務用・工業用

数量

大口供給先で需要が増加(+)

航空関連事業 経常利益



羽田空港での航空機給油施設の運営および給油業務のほか、北海道から沖縄まで全国27ヶ所で給油業務や給油施設の管理等をおこなっている。



羽田空港

数量

国内線は夏場の旅行需要が回復(+)
国際線は訪日外国人の増加による増便等により好調に推移(+)

単価

燃料取扱手数料の単価上昇(+)

その他空港(25空港、1ヘリポート)

数量

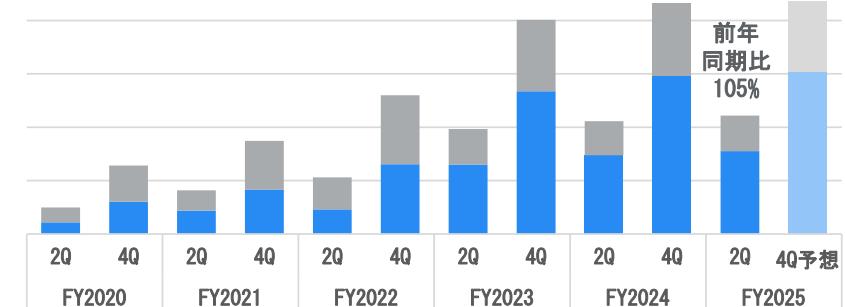
関西の空港を中心に給油数量が好調に推移(+)

販売費及び一般管理費

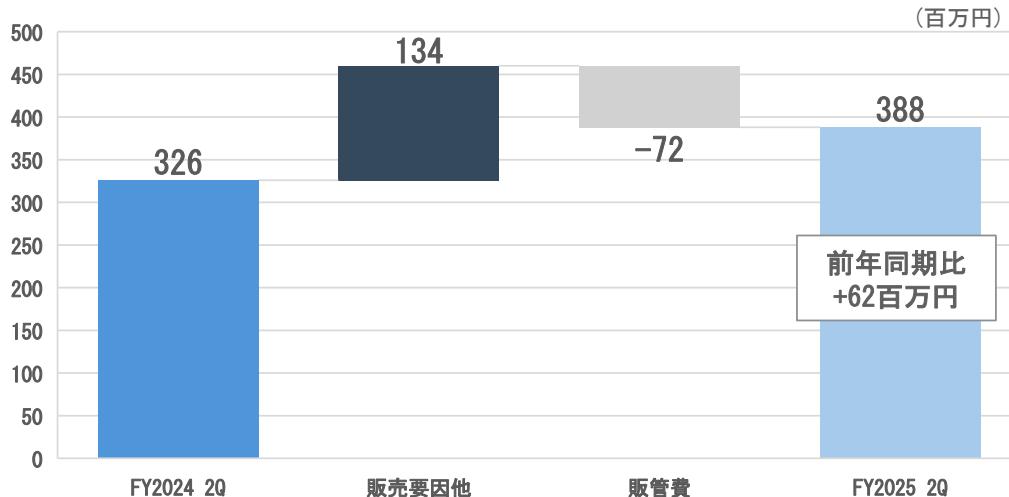
システム保守料、国有地賃借料の増加(-)

羽田空港 航空燃料搬出数量推移

■国際線 ■国内線



その他事業 経常利益



金属製品等の洗浄・表面処理業、建設工事業等をおこなっている。
近年は半導体製造装置の部品洗浄が収益割合が大きくなっている。



※各事業の金額は経常利益の内訳を表示

金属製品等の洗浄・表面処理業	240百万円
販売他	大口取引先からの受注が増加(+)
建設工事業	127百万円
販売他	設備関係の受注が増加(+)
不動産賃貸・ソーラー事業	22百万円

貸借対照表

2024年度末

現金及び預金 40,599	有利子負債 4,138
その他流動資産 55,790	その他負債 82,948
固定資産 59,774	
投資その他の資産 50,945	純資産 120,023 (自己資本比率 54.8%)

総資産 207,110百万円

- 純資産 ······ 期末配当金の支払いなどにより92百万円減少
- 自己資本比率 ······ 支払手形及び買掛金の減少により上昇

2025年度 第2四半期末

現金及び預金 41,306	有利子負債 3,850
その他流動資産 48,164	その他負債 72,125 (支払手形及び買掛金 -9,591)
固定資産 60,474	
投資その他の資産 45,962	純資産 119,931 (自己資本比率 58.0%) (当期純利益 +2,828) (期末配当 -3,116)

総資産 195,907百万円

キャッシュ・アロケーションの状況

2025年度 第2四半期

(百万円)

資金調達		(構成比)	資金活用		(構成比)
営業に伴う キャッシュ創出 (運転資金を除く)	6,806	(37.1%)	設備・事業投資	3,418	(18.6%)
資産売却等	261	(1.4%)	配当金支払	3,116	(17.0%)
営業保証金の回収等	5,990	(32.7%)	運転資金減少	2,524	(13.8%)
手元資金の活用	5,288	(28.8%)	法人税等支払	2,356	(12.8%)
			定期預金の預入	6,191	(33.8%)
			その他資金活用	740	(4.0%)

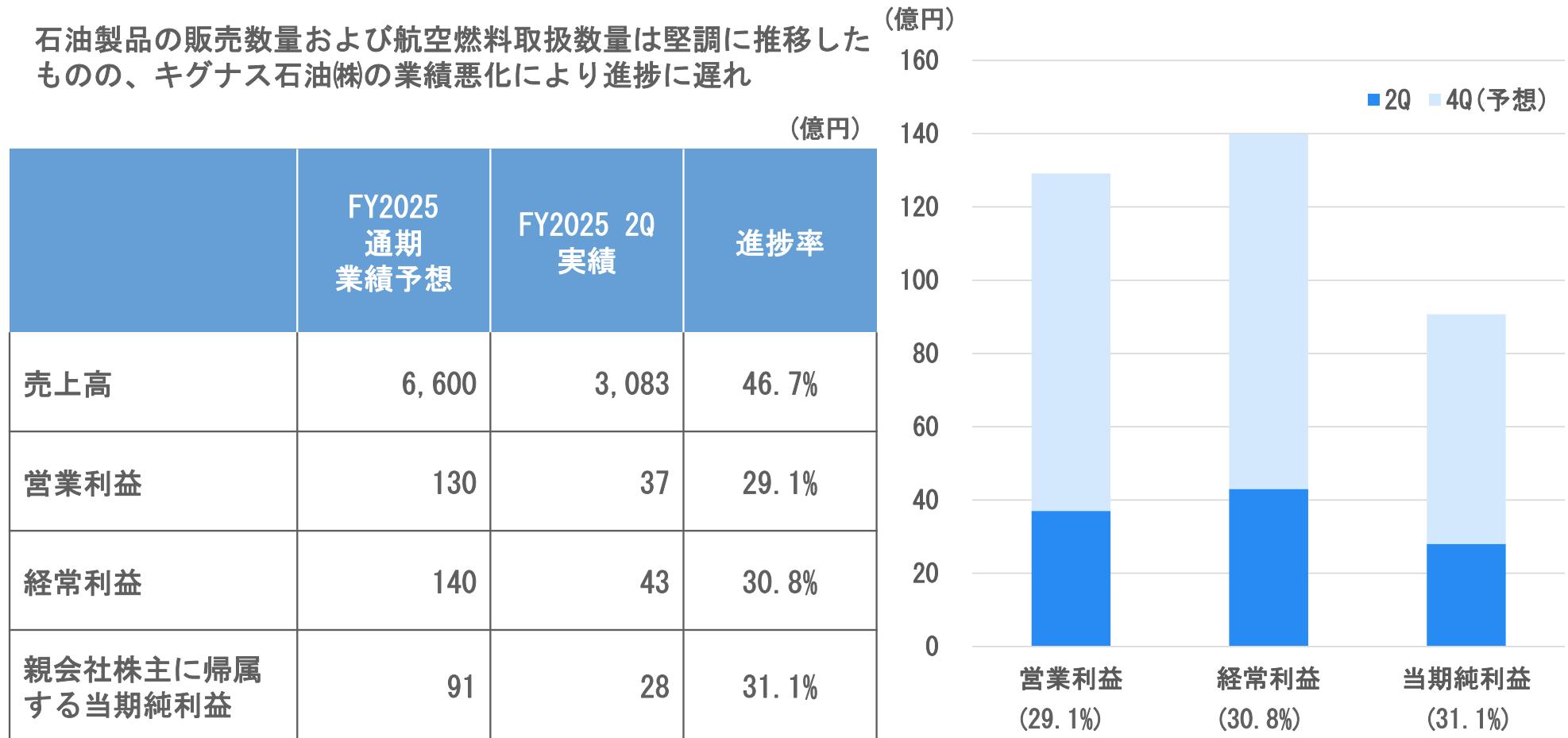
- ・ 営業活動および営業保証金の回収によって調達した資金を主に設備・事業投資および配当金の支払に活用した。
- ・ 前期に仕入先へ担保として差し入れた営業保証金は銀行保証に変更し、資金を回収した。
- ・ 資金需要が減少する夏場、定期預金による短期運用をおこなっている。



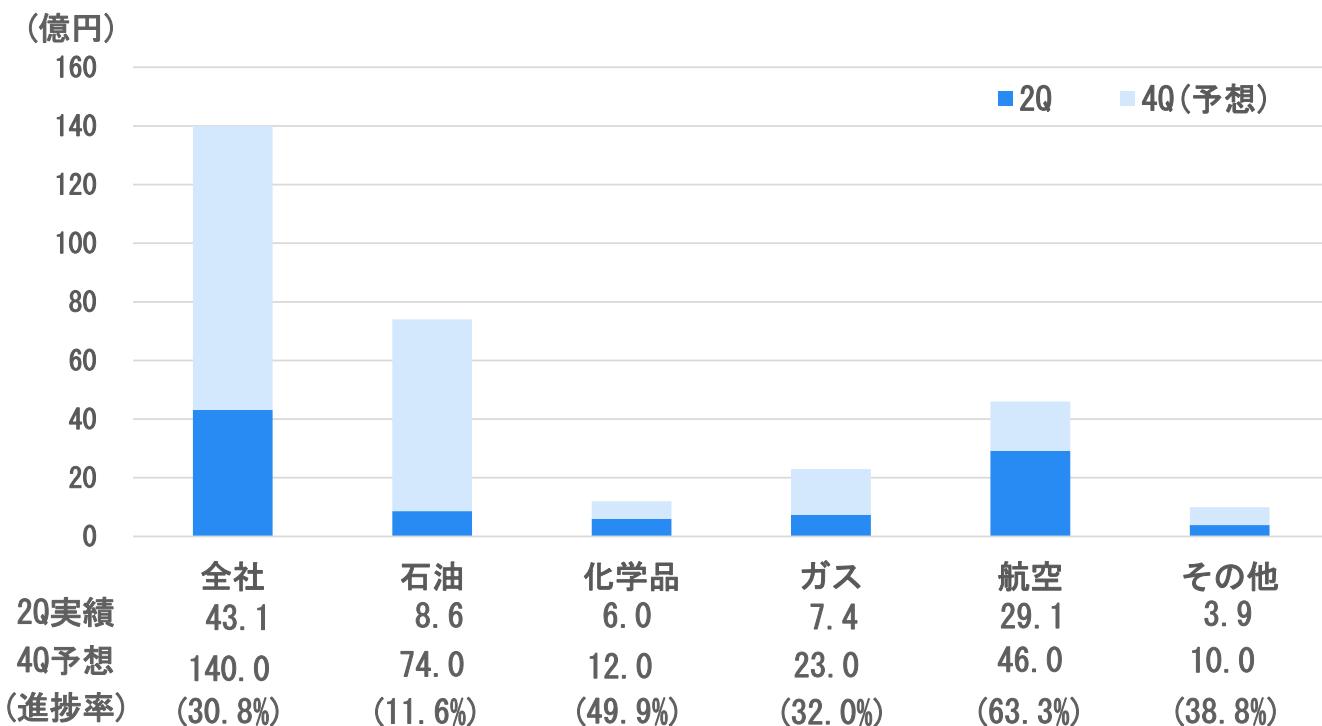
2. 業績の進捗と株主還元

業績の進捗

石油製品の販売数量および航空燃料取扱数量は堅調に推移したもの、キグナス石油(株)の業績悪化により進捗に遅れ



セグメント利益の進捗



中期経営計画
2024-2026年度 目標

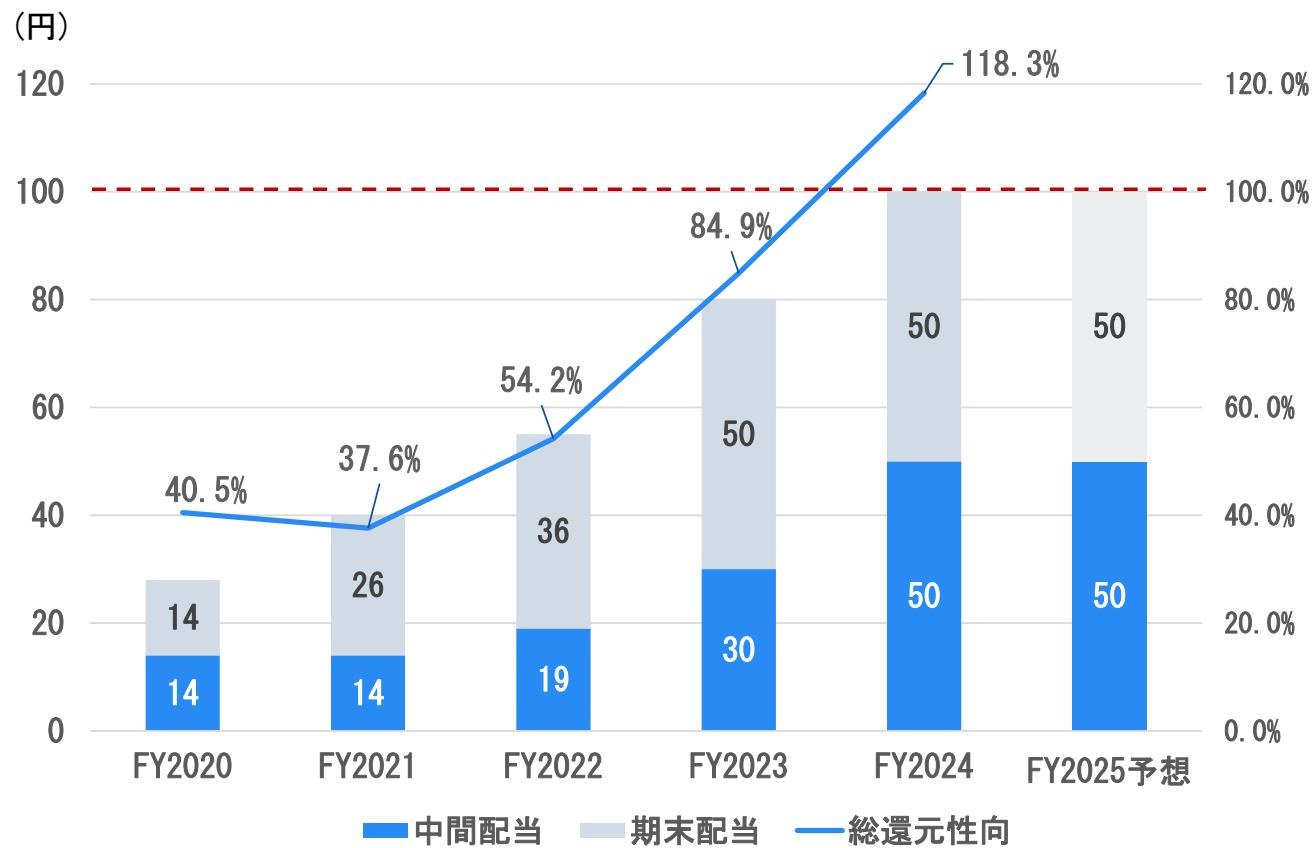
経常利益
130～150億円

連結ROE
8 %以上

- キグナス石油(株)の収益性を早期に改善し、進捗の遅れを取り戻す
- 化学品関連事業は予定通りに進捗
- ガス関連事業は前年同期比で大きく増益、好調に推移
- 航空関連事業は想定を上回る実績となっており、今後も好調な需要が続く見通し

株主還元の状況

1株当たり年間配当については100円（中間配当50円）を維持する予定



中期経営計画
2024-2026年度 目標

1株当たり年間配当
100 円を下限とする

総還元性向
100%を目指す

PBR（株価純資産倍率）の状況



中期経営計画
2030年度 目標

成長戦略・資本政策の実行
と適正な株主還元により
PBR（株価純資産倍率）
1.0倍以上を持続する

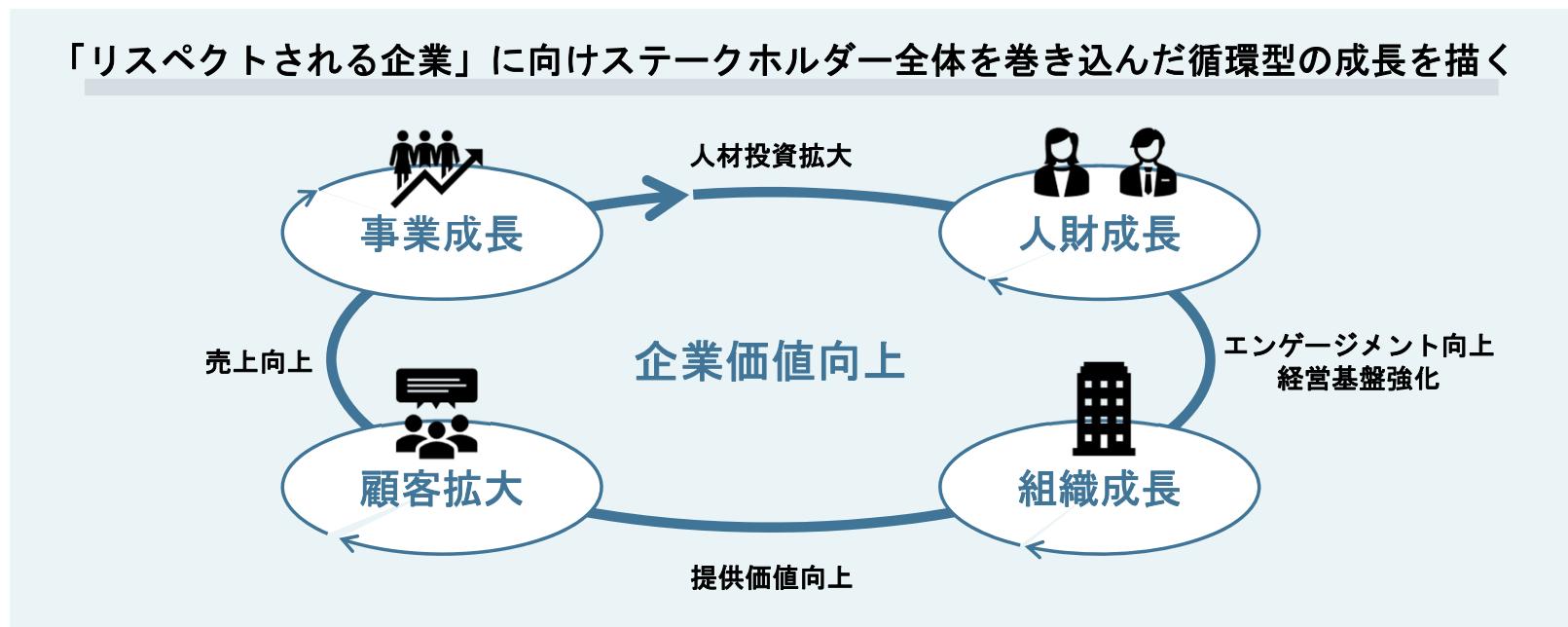


3. 本事業年度のトピックス

企業価値向上委員会の設立

三愛オブリグループが、事業活動を通じて顧客・社会へ提供する価値を最大化するとともに、価値を創造し続ける人財・組織基盤を強化するため、「企業価値向上委員会」を設立しました。

経営陣と従業員が一体となって既存事業モデルの転換と新規領域への投資拡大などの具体的な戦略を策定し、経営計画に適宜反映してまいります。



接客AIロボットの実証試験

三愛リテールサービス株式会社の運営するオブリステーション青梅インターにおいて、avatarin株式会社と共同開発したSS用接客ロボットの実証試験を実施しました。

同機は、人に代わってドライバーへの給油方法の案内、安全啓発、自動車関連商品の案内などの「声掛け」をおこなうもので、SSのサービス向上と人手不足の解消が期待されます。

今後は現場での学習によりAIの精度を上げ、稼働率の高いSSに順次導入してまいります。

